市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	優良雌牛導入事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(7)－ア
					おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	肉用子牛の品質及びセリ価格を向上させることで、畜産農家の経営の安定化を図るため、優良繁殖雌牛の導入に係る経費を支援(補助)する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	26,625	22,925	25,000	35,000	25,000
	(b) 予算現額	26,625	22,925	25,000	28,045	16,496
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	-6,955	-8,504
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	26,625	22,925	25,000	28,045	16,496
B. 執行済額		25,574	22,925	21,814	19,689	6,635
うち交付金充当額		20,459	18,340	17,451	15,751	5,308
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		96.1%	100.0%	87.3%	70.2%	40.2%

予算の状況の説明：予算8,504千円の減額は、計画していた導入頭数を下方修正したことによるものである。
不用額9,861千円は、セリ価格の下落に、飼料高騰が相まって経営的な事情による導入控えが生じたことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
優良雌牛導入（頭）	目　標	50	50	79	55
	実　績	54	56	56	22

達成状況説明：セリ価格の低迷が続き家畜農家の経営が圧迫されているところに、飼料の高騰が相まって新たな優良雌牛の導入を控える農家が増加し、結果として目標頭数を下回る導入実績となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
導入した優良雌牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合（%）	目　標		105以上	106以上	107以上	
	実　績		106	108	106	

進捗状況説明：・目標値を1ポイント下回ったものの、平均価格は優良雌牛から生まれた子牛の408,390円に対して、そうでない牛から生まれた子牛は386,413円となり、効果は継続して発現した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・市場全体でセリ価格の低迷が続き販売単価が大きく下回った。これによって、出荷頭数が計画どおりであっても、単価下落の影響を受けたことが目標値を下回った主な要因と考えられる。	・価格が低迷する局面では、セリ出荷に向けて、畜産農家における育成期間の延長や、出荷調整を行うといった対応が可能な運用体制に見直すなど工夫が必要である。

今後の取り組み方針

・セリの販売価格の低迷が続く局面におけるセリ出荷の対策として、セリに向けた育成期間の延長や、出荷の調整など運用体制の改善が図られるように、沖縄県農業協同組合と連携を図りながらサポート等を実施していく。効果的にセリにおける販売価格を引き上げることで、優良繁殖雌牛の導入の促進にもつなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,642	6,635	5,308	1,327	8,007

久米島町
6,635千円
→ 補助金
6,635千円
→ 沖縄県農業協同組合
久米島支店
6,635千円
（久米島町優良繁殖雌牛導入事業補助金）

（ほか組合負担分（交付対象外経費）
8,007千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は交付要綱に基づき肉用牛（子牛）生産基盤の拡充、強化を図ることのできる沖縄県農業協同組合を選定しており、妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、国勢等の影響を受け計画の大幅な縮小が生じた。 ○受益者は沖縄県農業協同組合久米島支店であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	久米島紬販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(4)

事業内容

久米島紬及び関連商品の売上増加を図るため、久米島紬事業協同組合が実施する久米島紬の新商品開発や販売促進、販路開拓等の活動を支援（補助）する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,630	2,106	2,287	2,560	2,605
	(b) 予算現額	1,630	2,106	3,187	2,560	2,605
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	900	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	1,630	2,106	3,187	2,560	2,605
B. 執行済額		1,017	1,668	2,752	1,958	2,490
うち交付金充当額		813	1,334	2,201	1,566	1,992
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		62.4%	79.2%	86.4%	76.5%	95.6%

予算の状況の説明：概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
物産展等への出展（回）	目　標	出展	出展	出展	出展
	実　績	1	3	1	4
呉服店（問屋）へのセールス（回）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	0	1	0	0
新商品の開発（試作品）（着）	目　標	10反開発	ウェディング1 琉装2	子ども用着物製作	夏用着物10
	実　績	10反開発	ウェディング1 琉装2	子ども用着物8	10
アドバイザーの招聘（回）	目　標	－	招聘	招聘	招聘
	実　績	－	3	3	9

達成状況説明

・県内外の物産展は、県内、県外いずれも2回出展した。
・呉服店（問屋）へのセールスは、催事と日程が重なり日程の再設定が難しく実施を見送った。
・新商品開発は、温暖化の影響を勘案し夏物の需要に応えるため、夏物着物（男物羽織3点、男物着物3点、女物着物4点）を製作した。
・アドバイザー招聘は、顧客管理や小物類の見直し、価格設定等の研修、勉強会を9回実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
久米島紬及び関連商品の年間売上高 反物売上額（万円）	目　標		6,500以上	6,446以上	6,500以上	
	実　績		6,898	6,466	6,900	
久米島紬及び関連商品の年間売上高 小物売上額（万円）	目　標		1,200以上	1,174以上	1,400以上	
	実　績		1,043	1,630	1,600	

進捗状況説明

・反物売上額は、目標値及び昨年度実績値を上回った。
・小物売上額は、目標値を大幅に達成したものの昨年度を下回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・製品の価値向上として反物の単価を見直したことに伴う売上の増加や、久米島紬の国指定重要無形文化財20周年記念事業の宣伝効果があったことが目標値を達成した主な要因と考えられる。 ・クルーズ船で寄港した外国人を含め小物をメインに販売するショップに訪れる観光客が増加したこと、さらに客単価が上がったことが、目標値を上回った主な要因と考えられる。	・現在一部の織子に受注が集中しており、組合全体の生産能力が十分に活かされていない。受注管理体制を見直し、適切な業務分担により生産性を高める必要がある。 ・現在のニーズにあった商品（小物）を引き続き製作するとともに、ショップへの誘客をより促進する仕組みづくりを行う必要がある。

今後の取り組み方針

・安定した生産・供給に向けて、織子全体のスキルアップを目的とした技能講習を開催していく。また、一部の織子に受注が集中しないように、各織子の受注件数と工期の進捗管理を徹底し、均等に製造を割り振ることで生産効率の向上と計画的な対応が可能となる受注管理体制の構築に取り組む。
・過去の売れ筋商品の傾向や、現在のニーズを分析し久米島紬関連商品の開発に取り組むとともに、ショップへの誘客に向けて、観光客が訪れる空港や宿泊施設等における広報を強化できるよう関係者と調整していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,767	2,490	1,992	498	277

久米島町 2,490千円 → 補助金 2,490千円 → 久米島紬事業協同組合 2,490千円（久米島紬販売促進事業補助金）

（ほか、組合負担分（交付対象外経費）277千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金交付団体は織子が構成する組合を選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○補助金交付団体は、総事業費の1割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	久米島特産品販路開拓事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ 地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（4）
事業内容	久米島産の特産品の売上の向上を図るため、久米島商工会が行う特産品の販促活動やPR活動を支援（補助）する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,814	8,367	8,538	5,793	10,014
	(b) 予算現額	7,665	8,367	8,538	8,004	10,014
	(c) 増減額 (b-a)	-2,149	0	0	2,211	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	7,665	8,367	8,538	8,004	10,014
	B. 執行済額	6,033	4,456	8,220	8,004	9,715
	うち交付金充当額	4,826	3,654	6,576	6,403	7,771
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	78.7%	53.3%	96.3%	100.0%	97.0%

予算の状況の説明：概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
県内外での物産展開催、出展	目　標	5回	5回	5回	6回
	実　績	3回（うちオンライン2回）	5回（県内3回、県外1回）	4回（県内2回、県外2回）	7回（県内4回、県外3回）

達成状況説明：富裕層をターゲットに県内デパートで初めて物産展を開催し一定の成果が得られた。
また、県外では商談会を開催し継続取引先の新規開拓を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
開催、出展した物産展における島特産品の販売額（万円）	目　標		2,352以上	1,932以上	2,560以上	
	実　績		1,506万円	2,022万円	3,096万円	

進捗状況説明：・売上目標2,560万円に対して実績3,096万円と、昨年度から売上が伸び目標値も上回った。

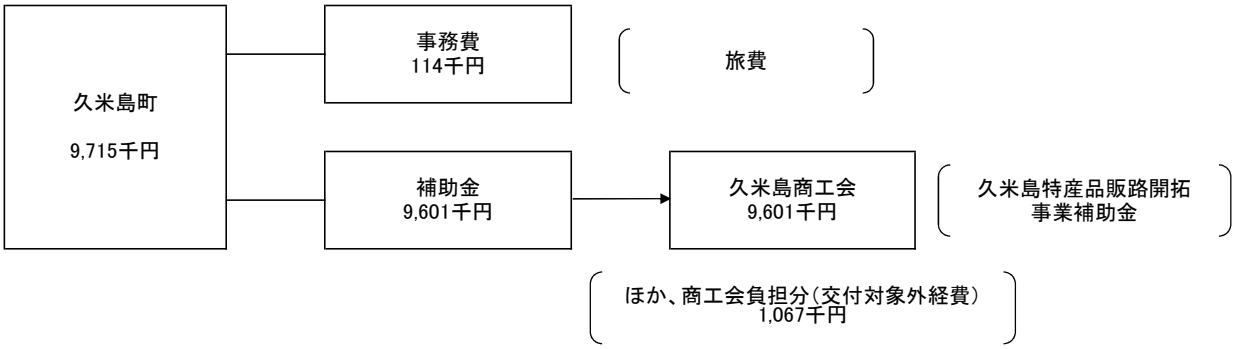
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県内外物産展等の販売機会を予算の範囲内で計画よりも多く参加でき、さらに、参加した事業者個々の催事における売上が昨年度を上回ったことが、目標値を達成した主な要因と考えられる。	・特産品の一層の売上の増加に向けて、県内外いずれもターゲット設定をより明確化したうえで、効率的なPRも加え取り組んでいく必要がある。

今後の取り組み方針

・販路を開拓し持続的な売上の確保につなげていく観点で特産品を販売するターゲットを設定し、参加する物産展や商談会の再検討を行う。特に、県外開催の物産展・商談会については関東圏に偏っていることから関西圏も検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,782	9,715	7,771	1,944	1,067



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は商工会であり、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。 ○物産展等開催する上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者である商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断して妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査をしており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	ブランディングサポート事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-イ
					地域資源を活用した特産品の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和4～6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（4）

事業内容

久米島産の特産品を製造・販売する事業者の売上の向上を図るため、特産品等の改良や付加価値を高める機会を設け、事業者の経営の底上げに取り組む久米島商工会の活動を支援（補助）する。

効果発現年度　■当年度　■後年度（R7年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,208	2,353	2,354		
	(b) 予算現額	1,208	2,353	1,057		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	-1,297		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	1,208	2,353	1,057		
	B. 執行済額	1,208	2,190	941		
	うち交付金充当額	966	1,752	752		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	93.1%	89.0%		

予算の状況の説明：予算の減額1,297千円は、補助金交付団体に欠員が生じ一部事業の取組が困難となったことよるものである。概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ブランディング研修（回）	目　標	10	2	2	
	実　績	6	2	2	
商品開発に向けた試作品の検証	目　標			1	
	実　績			1	

達成状況説明
・ブランディング講習会はR6年度対象事業者に2回開催した。
・商品開発に向けた試作品の検証は、1事業者の試作品を検証した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（7年度）
事業継続していく上で効果があったと回答した研修参加事業者の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		100	100	100	
特産品売上額（千円）	目　標			8,349千円以上		12,127
	実　績			13,273千円		

進捗状況説明
・研修に参加した全事業者から効果があったと回答があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・全体研修や個別相談において、事業者が抱える課題等に関して、講師から専門的なアドバイスを実施したこと、また、商品開発や既存商品の改良に必要な支援（補助）を行うことで試作品の開発ができたことが目標を上回った要因と考えられる。	・一定の満足は得ることが出来たが、昨年の参画事業者数7者に対して本年度は4者と減少した。小規模事業者では、試作品の開発や、商品包装デザインの刷新等の改良等に係る負担が大きく、参画が叶わない事業者が生じていると考えられ、体制面のサポートも必要である。

今後の取り組み方針

・全国各地で魅力的な特産品がある中で、本町の特産品の売上を増加させるためには、時代の購買需要に応じた商品となるよう事業者による商品の改良や、高付加価値化が欠かせない。小規模事業者でも商品の改良や、高付加価値化がしっかり実施されるように、久米島商工会と連携しながら取り残さない支援のあり方を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,046	941	752	189	105

久米島町 941千円 → 補助金 941千円 → 久米島商工会 941千円

（ブランディングサポート事業補助金）

（ほか、商工会負担分（交付対象外経費）105千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である久米島商工会は、島内事業者の支援機関として組織された公的機関である。また実績及び知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は島内事業者の振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者である久米島商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	観光誘客促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

久米島の知名度向上、観光客の利便性向上及び観光閑散期の誘客を図るため、観光イベントの開催や、県内外における久米島観光等の宣伝活動の実施、久米島空港に観光案内所の開設を行うほか、MICE受入に向けた受入体制の強化に取り組む。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,299	8,119	8,119	23, 421	28, 464
	(b) 予算現額	6,510	8,119	11,136	21, 248	16, 653
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 789	0	3,017	-2,173	▲ 11,811
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	6,510	8,119	11,136	21,248	16,653
B. 執行済額		5,748	6,275	9,256	18,808	15,040
うち交付金充当額		4,598	5,020	7,405	15,046	12,031
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		88.3%	77.3%	83.1%	88.5%	90.3%

予算の状況の説明

予算11,811千円の減額は、委託業務の執行残が生じたこと、チャーター便の就航において民間事業者の参入があり本事業による実施を見送ったこと等によるものである。
不用額1,613千円は、精算時に生じた旅費、会場使用料等の執行残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
久米島空港観光案内業務	目　標	開設	開設	開設	開設
	実　績	開設	開設	開設	開設
観光広報活動	目　標	県内4件 県外1件	県内4件 県外1件	県内3件 県外1件	県内3件 県外2件
	実　績	県内1件 県外0件	県内2件 県外0件	県内3件 県外2件	県内3件 県外2件
MICE受入体制強化業務	目　標				備品購入
	実　績				備品購入

達成状況説明

・久米島空港観光案内業務は、東京～久米島の直行便就航時期は多くの観光客が来島されるため、通常2名シフト体制の他、1名追加し、本町に訪れる観光客に対しての観光案内に加え、台風等の非常時に際しての対応を行うことができた。
・観光広報活動は、県内外で開催されるイベントにて、効果的かつ効率的に広報活動を行うことができた。
・MICE受入体制強化業務は、プロジェクターや机、椅子等の備品を購入し、受入体制を整えた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
久米島に旅行でいま訪れてみたいと回答した割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		未実施	98	99	
MICE年間受入件数（件）	目　標				36	
	実　績				2	

進捗状況説明

・イベント出店時のブース来訪者に久米島観光等の宣伝を行った。アンケートの結果から目標を達成できた。
・MICE年間受入件数は、目標を大幅に下回った。

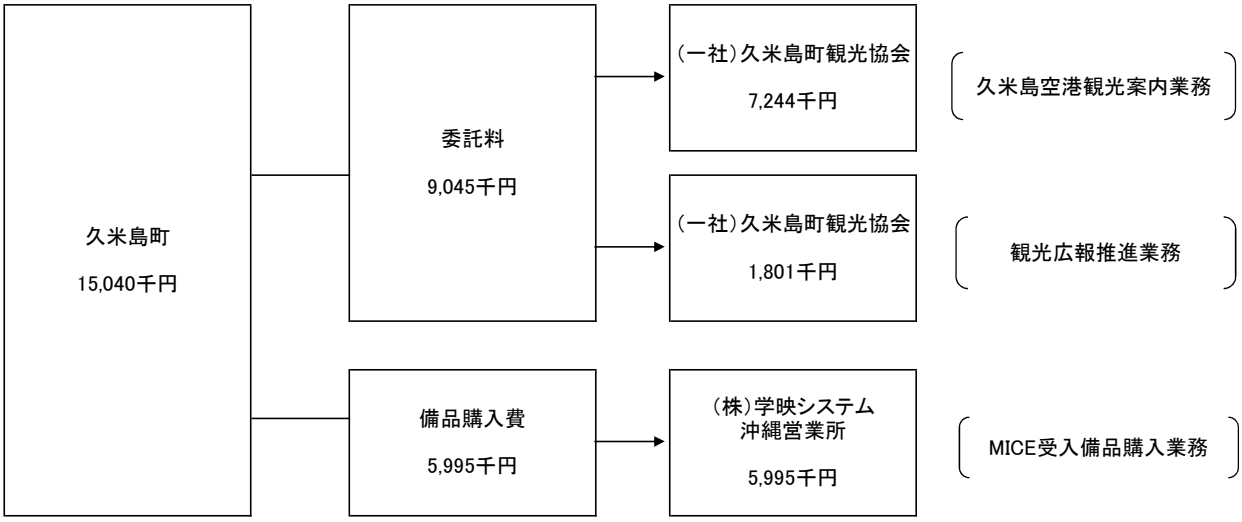
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・島外での久米島観光等の宣伝活動を通じて久米島ならではの魅力を発信できたことが目標の達成につながったと思料するものの、実際の久米島への来島や消費行動につながったかは更なる検証が必要である。 ・調達する備品の内容の見直しが生じ、計画より整備の完了が遅延したことによりMICEの受入期間が十分に確保できなかったことが目標を下回った主な要因と考えられる。	・島外での久米島観光等の宣伝活動の効果を把握し誘客対策につなげるため、久米島町に訪れた観光客に対して、来島するきっかけに関して調査する必要がある。 ・MICEを計画している企業等への久米島観光等の宣伝活動を強化する必要がある。

今後の取り組み方針

・本事業による久米島観光等の宣伝活動から来島につながった観光客の実態把握に向けて、観光事業者と連携してアンケートを実施していく。
・MICE誘致に向けて、県内のMICE専用ポータルサイト「おきなわナビ」を通じた情報発信を強化していくとともに、社員旅行や慰安旅行の需要開拓を目的に、島内の関係事業所に広報活動を展開していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,040	15,040	12,031	3,009	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約、備品購入は一般競争入札で選定しており妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に旅費、会場使用料等の不用額が生じた。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	体験交流型観光商品開発販売促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	観光消費額の増加を図るため、観光閑散期における教育旅行等の団体客誘致に向けて、誘致活動や、体験プログラムのガイド育成、販売促進に取り組む。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,087	9,998	9,998	15,369	19,187
	(b) 予算現額	10,809	9,998	14,244	14,586	17,665
	(c) 増減額 (b-a)	5,722	0	4,246	-783	-1,522
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	10,809	9,998	14,244	14,586	17,665
	B. 執行済額	6,428	6,154	12,468	13,902	16,275
	うち交付金充当額	5,142	4,923	9,974	11,122	13,019
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		59.5%	61.6%	87.5%	95.3%	92.1%

予算の状況の説明：予算1,522千円の減額は、修学旅行客の計画値の下方修正によるものである。
不用額1,390千円は、精算時に旅費の執行残や、修学旅行受入人数の減少に伴うものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
教育旅行誘致活動（回）	目　標			13	12
	実　績			3	15
教育旅行誘致数（校）	目　標			12	13
	実　績			9	15
受入人数（人）	目　標			1,300以上	1,500以上
	実　績			1,500	1,866
観光体験プログラムの販売促進	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		
民泊受入体制の整備、強化	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		

達成状況説明：
・教育旅行誘致活動は、予算の範囲内で15回実施することができた。
・教育旅行誘致数及び受入人数は、計画的な誘致活動によりいずれも目標値を上回った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
一般：観光体験プログラム売上額（円）※教育旅行以外	目　標		2,786,683以上	1,853,511以上	1,607,174以上	
	実　績		2,277,550	2,189,050	1,268,780	
教育旅行：観光体験プログラム売上額（円）	目　標		14,056,279以上	9,140,653以上	7,245,752以上	
	実　績		11,391,500	13,794,110	16,359,640	

進捗状況説明：
・一般は、目標値を下回り、前年度から920,270円減少した。
・教育旅行は、目標値を大幅に上回り、前年度から2,565,530円増加した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・一般（教育旅行以外）向けの情報発信は、主にホームページやSNSにて利用されるように宣伝を実施したものの、観光客に十分に情報が行き届かなかったことが目標を下回った主な要因と考えられる。 ・教育旅行客（団体）の誘致に向けて、新たな体験プログラムを作成し、選択の幅を広げ魅力を高めたこと、各体験プログラムに万遍なく受入れを行い効率化が図られたことにより、より多くのガイド収入に繋がったことが目標を達成した要因と考えられる。	・観光体験プログラムの受入れは、小規模経営かつ兼業の事業者が実施するため、実施日の2～3日前までに申込を行わなければ対応が困難な状況であることから、来訪者に旅程の早期検討を促し体験プログラムを組み込ませるようにする必要がある。 ・営業を行っていない地域や学校にも久米島における教育旅行の魅力等を発信するほか、観光閑散期の4月～6月の受入増加の見込があるか調査、検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・久米島旅行を計画する方が閲覧するホームページ等において、旅程の早期検討を促しつつ、令和6年度に構築した観光体験プログラムのインターネットサイト（予約から料金の決済まで完結できる機能）の利用につなげることで、着実に利用者を確保し、一般の観光体験プログラム売上額の増加を図っていく。
・教育旅行団体に対して体験型観光の魅力を積極的に伝える営業活動を引き続き行い、現在訪れている団体の継続はもとより、新規団体の誘致にもつなげていく。4月～6月をはじめ観光閑散期における教育旅行の誘致に向けては、調査等により団体旅行の需要を見極めつつ、新しい体験プログラムの導入や受入体制の調整を含め、教育旅行を行う学校側に働きかけていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,275	16,275	13,019	3,256	0

久米島町 16,275千円 → 委託料 16,275千円 → （一社）久米島町観光協会 16,275千円 （体験交流型観光商品開発販売促進事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に旅費、修学旅行受入に係る数量の減が生じ不用額が生じた。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	久米島観光ブランディング事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（2）-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和4～6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）

事業内容

観光消費額の増大を図るため、「食」をテーマとした久米島観光の高付加価値化による久米島の認知度や、食の満足度の向上に向けて、ご当地グルメの開拓や販売促進等に取り組む。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,295	13,068	13,211		
	(b) 予算現額	9,295	11,979	11,668		
	(c) 増減額 (b-a)	0	-1,089	-1,543		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	9,295	11,979	11,668		
B. 執行済額		7,040	10,125	8,210		
うち交付金充当額		5,632	8,100	6,568		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		75.7%	84.5%	70.4%		

予算の状況の説明

予算1,543千円の減額は、販売促進に係る情報発信手段の見直し等によるものである。
不用額3,458千円は、広告宣伝等の執行残、商標登録の実施見送りによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ご当地グルメの新規参加（店舗）	目　標	2	2	3	
	実　績	1	0	8	
新たな特産品・お土産物の開発（件）	目　標	2	2		
	実　績	0	0		
県内外プロモーション活動（回）	目　標			2	
	実　績			2	

達成状況説明

新規参加店舗を増加して新メニュー4品を追加できた。
県内外で「食」をテーマとした久米島観光の効果的な宣伝活動を行い目標達成に繋がった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
観光消費額　食事・お酒（円）	目　標		12,851	13,351		
	実　績		14,135	11,324		
観光消費額　お土産・買い物（円）	目　標		8,329	8,829		
	実　績		8,957	7,203		

進捗状況説明

・観光消費額　食事・お酒は、PRイベントや、宣伝等を実施したものの目標値に対して2,027円下回った。
・観光消費額　お土産・買い物は、本事業による取組の実施がなく、目標値に対して1,626円下回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ご当地グルメの新規参加や提供商品の増加により、消費機会は拡大したものの、県内外向けの宣伝活動が十分とは言えず、消費行動に結びつかなかったことが主な要因と考えられる。	・ご当地グルメの開拓に参加する飲食事業者の更なる増加を図ることで、久米島全体の食の魅力を高めるとともに、観光客の消費行動につながる仕掛けが必要である。

・ご当地グルメの取組に未参加の飲食事業者に、これまでの実施効果や、今後の展望等を丁寧に説明することで参加を促していく。また、より効果的な情報発信に引き続き取り組みつつ、ご当地グルメ提供店舗のスタンプラリーを実施することで食べる機会を創出するなど、観光消費を後押しする仕組みの構築も検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,210	8,210	6,568	1,642	0

久米島町 8,210千円 → 委託料 8,210千円 → （一社）くめじまDMO 8,210千円 （久米島観光ブランディング事業委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に広告宣伝等の減額や商標登録の実施見送りにより不用額が生じた。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	アウトドアツーリズム展開促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ
					多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	令和5～6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

久米島観光における付加価値の創出を通じた新たな顧客層の誘客を図るため、新たな旅のスタイルとして注目されているアウトドアツーリズムを、奥武島キャンプ場を拠点に商品化し販売促進する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,607	7,483			
	(b) 予算現額	7,482	7,916			
	(c) 増減額 (b-a)	-2,125	433			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	7,482	7,916			
B. 執行済額		6,639	7,916			
うち交付金充当額		5,311	6,332			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		88.7%	100.0%			

予算の状況の説明：計画どおり予算を執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
アウトドアツーリズムの商品化（件）	目　標	5	5		
	実　績	3	4		
アウトドアツーリズム商品の販売促進	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		
民間事業者による奥武島キャンプ場の管理運営	目　標	実施	実施		
	実　績	実施	実施		

達成状況説明：アウトドアツーリズム商品5件の開発を目標として取り組み、①アウトドア×ワーケーション、②エディブル（食べられる）キャンプ場、③団体向けプラン、④ラウンジでの宿泊プラン　など4件の商品開発を行った。そのほか、地元の事業者や工芸家とコラボしたイベントやシーズンに合わせた交流イベントを行い、キャンプ場の認知度向上を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（H30年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
奥武島キャンプ場の利用者数（人）	目　標	872	1,000	1,200		
	実　績		1,399	1,637		

進捗状況説明：令和5年度の実績を勘案し、キャンプ場利用者数の目標値を1,200人としたが、団体利用やイベント実施などにより、目標を大きく超える1,637人の利用者があり目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・テントの設置代行サービスやWEB予約システムの活用、キャッシュレス決済の導入等を行い利便性を高めたこと、キャンプ場を拠点に地元事業者と協働でイベントを実施したことで島内における認知度の向上を図れたことが、目標を達成した要因と考えられる。また、天候に左右されやすい特性を踏まえ、雨天でも安心して滞在できるようにラウンジ（管理棟）での宿泊プランを造成したことも一因と考えられる。	・離島におけるキャンプは道具の準備、輸送等の課題が挙げられキャンプを含む旅行の需要が想定より低い状況にある。今回の成果を活かしながらキャンプ等の実施頻度が低い顧客層向けに、テントの設置代行や、魅力的なプランの提案といったサービスの一層の強化や、送客力のある旅行会社と提携した商品開発を模索してく必要がある。

今後の取り組み方針

・認知度の向上につながるイベント会場としての活用に引き続き取り組むとともに、地元ならではの各種体験プログラムとの連携を強化することで旅行需要を高めていく。キャンプを含めた旅行商品の開発に向けては、旅行会社と提携して、離島の離島という特別感、ビーチに隣接している点など位置的な優位性を活かした宣伝を展開していくほか、企業研修など団体向けのプランも積極的にPRしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,916	7,916	6,332	1,584	0

久米島町 7,916千円 → 委託料 7,916千円 → 合同会社PLUCK 7,916千円

（アウトドアツーリズム展開促進事業業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認を行い適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	観光地等環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度		「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容	観光地として利用されている広場等の環境美化作業を実施し、魅力的な観光地としての景観を形成することで観光客等の満足度向上を図る。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	46,596	56,219			
	(b) 予算現額	47,966	59,498			
	(c) 増減額 (b-a)	1,370	3,279			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	47,966	59,498			
B. 執行済額		47,966	59,498			
うち交付金充当額		38,372	47,598			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：予算3,279千円の増額は、報酬額等の改定によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
環境美化作業の実施	目　標	町内45か所	町内45か所		
	実　績	町内46所	町内46か所		

達成状況説明：計画どおり観光地及び関連施設・アクセス道路の草刈り等の環境美化作業を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
観光地として魅力的な景観であると回答した観光客の割合（%）	目　標		80以上	80以上		
	実　績		85..7	87.3		

進捗状況説明：・観光客に対してアンケートを実施したところ目標値を上回る満足度であった。

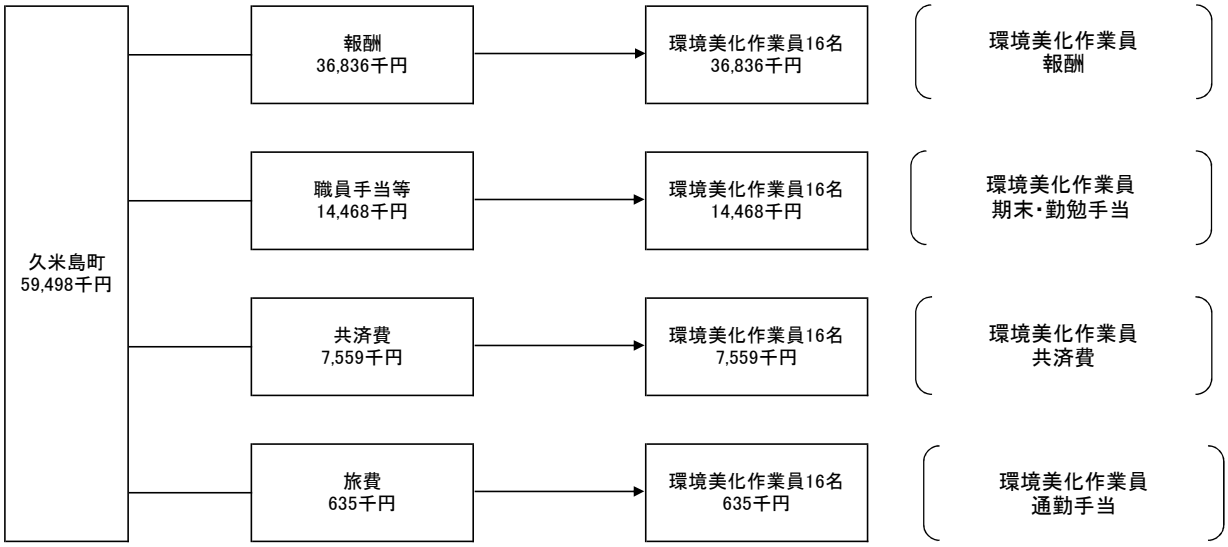
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・年間を通して観光地及び関連施設・アクセス道路の除草等の環境美化作業を実施し、雑草の繁茂防止や、枯葉、生物の死骸等の除去等により観光地としての景観を持続できたことが目標を上回った要因と考えられる。	・特に夏場にかけては雑草等の繁殖・成長が早く、活動が活発化するハブの咬傷被害も懸念されることから、より効率的な環境美化作業の実施に取り組み観光客等の安全を確保する必要がある。

今後の取り組み方針

・危険又は景観が損なわれやすい観光地及び関連施設へのアクセス道路と、そうでない箇所の美化作業実施の頻度を検討し作業を効率化することで、誰もが安全安心に利用でき、快適に過ごせる魅力的な観光地らしい景観を常に形成していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
59,498	59,498	47,598	11,900	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○久米島町会計任用職員任用規定に基づき採用しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、観光地等環境美化強化事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	スポーツコンベンション推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア ｽﾎﾟｰﾂ関連産業の振興と地域の活性化
担当部課名	環境保全課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

野球場や多目的運動場等のスポーツ施設をプロ野球チーム等がキャンプを実施できる水準に整備し、観光閑散期にスポーツキャンプ・合宿を誘致することで、観光・サービス業を中心とした域内経済の活性化を図る。

効果発現年度　■当年度　□後年度（令和　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,446	52,592			
	(b) 予算現額	23,436	84,185			
	(c) 増減額 (b-a)	-10	31,593			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	23,436	84,185			
B. 執行済額		23,436	84,185			
うち交付金充当額		18,749	67,348			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明

予算31,593千円の増額は、大型テントの設置業務において、当初の積算額よりも人件費、資材費等が高騰したこと、久米島野球場バックスクリーン塗装業務において、諸経費の見直しが生じたことによるものである。
計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
野球場、多目的運動場の高品質（透水性・硬度・均一性等）な土・芝生の整備・管理	目　標	整備・管理	整備・管理		
	実　績	整備・管理	整備・管理		
仲里野球場屋内練習場（大型テント）設置	目　標		実施		
	実　績		実施		
久米島野球場バックスクリーン塗装	目　標		実施		
	実　績		実施		
仲里野球場防球ネット設置	目　標		実施		
	実　績		実施		

達成状況説明

専門的な知識や技術のある業者に委託し整備を進めた結果、事業開始時より状態が改善している。
バックスクリーンの塗装、防球ネットの機能強化によりプレー時の視認性、安全性が高まった。
仲里野球場屋内練習場を設置したことで雨天時はもとより、屋外と屋内を活用した計画的な練習の実施が可能となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R4年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
スポーツキャンプ・合宿受入件数（件）	目　標	8	10	11		
	実　績		8	10		

進捗状況説明

R5年度と比較して増加したものの、目標値をわずかに下回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業により競技環境等を改善・向上したことでスポーツキャンプ・合宿団体から良い評価を受けているものの、プロ野球球団のキャンプ実施決定時期の関係で、大学・社会人団体の誘致が必ずしも十分にできなかったことが目標を下回った要因と考えられる。	・2野球場いずれも屋内練習場が利用できる環境が整い、悪天候時を含め効率的・効果的なトレーニングの実施につながっているほか、2球場同時に異なる団体の合宿を受入れることで対外試合（練習試合）等の実施が可能となりキャンプ地としての魅力も高まっていることから、より多くの団体を受け入れられるように12月から3月までの期間に余すところなく誘致できるように工夫する必要がある。

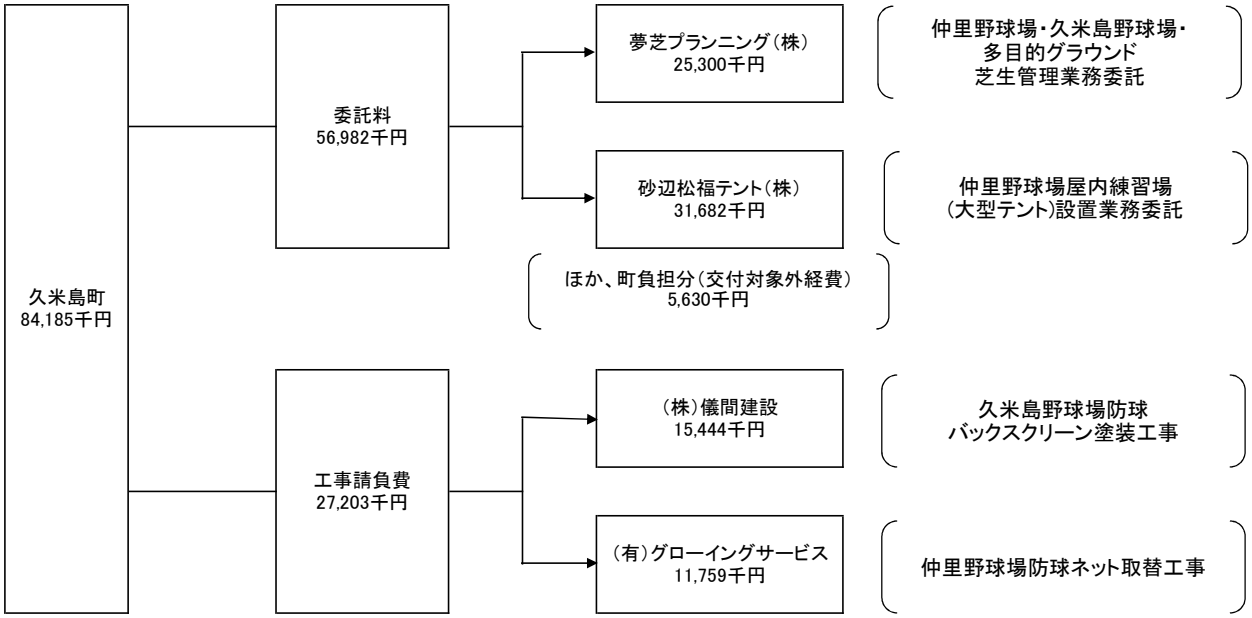
今後の取り組み方針

・引き続き、キャンプ地として選ばれる競技環境や条件面の改善・向上に取り組むとともに、プロ野球球団のキャンプ決定を早期に行うことで、大学・社会人の合宿等の計画的な誘致が可能となることから、球団側との調整を早期に進め、受入団体の増加を図っていく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
89,815	84,185	67,348	16,837	5,630



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約相手は指名競争入札又は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模はスポーツコンベンション事業を推進するうえで、妥当な規模である。 ○費目・使途については完了の際に検査・確認をしており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	英語指導員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(3)－ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	小学生の英語への興味・関心及び中学生の学力（英語）の向上を図るため、小・中学校に英語指導員を配置し、外国語授業等の支援を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,046	7,296	11,356	10,509	13,360
	(b) 予算現額	7,183	7,677	11,356	10,197	4,861
	(c) 増減額 (b-a)	137	381	0	−312	−8,499
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	7,183	7,677	11,356	10,197	4,861
	B. 執行済額	7,183	7,650	9,967	10,118	966
	うち交付金充当額	5,746	6,120	7,973	8,094	772
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.6%	87.8%	99.2%	19.9%

予算の状況の説明

予算8,499千円の減額は、英語指導員の担い手が確保できず、減員したことによるものである。
不用額3,895千円は、年度途中で欠員が生じ、その後短時間勤務の者を配置したことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
英語指導員配置数（名）	目　標	小学校　2	小学校　2 中学校　1	小学校　2 中学校　1	小学校及び中学校（巡回）1
	実　績	小学校　2	小学校　2 中学校　1	小学校　2 中学校　1	小学校4～6月1、1～3月1、中学0

達成状況説明

・年間を通した人材の確保ができず、小学校は4～6月に1名、1～3月1名を配置（各小学校を巡回）。中学校は、配置することができなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（2年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
【小学生】英語に対する興味・関心が高まったと回答した児童の割合（%）	目　標	80	85以上	85以上	80以上	
	実　績		86	81	74.8	
【中学生】全国学力学習状況調査における平均正答率の全国との差（ﾎﾟｲﾝﾄ）	目　標	−2	−2	−3	−3	
	実　績		−3.8	2.4	1.2	

進捗状況説明

・目標値の80%を超えることはできなかったが、3ヶ年平均では80%を超えており、町内児童の英語に対する意欲は高い。
・目標値を達成したものの、R5年度の2.4ポイントから1.2ポイント減少した。

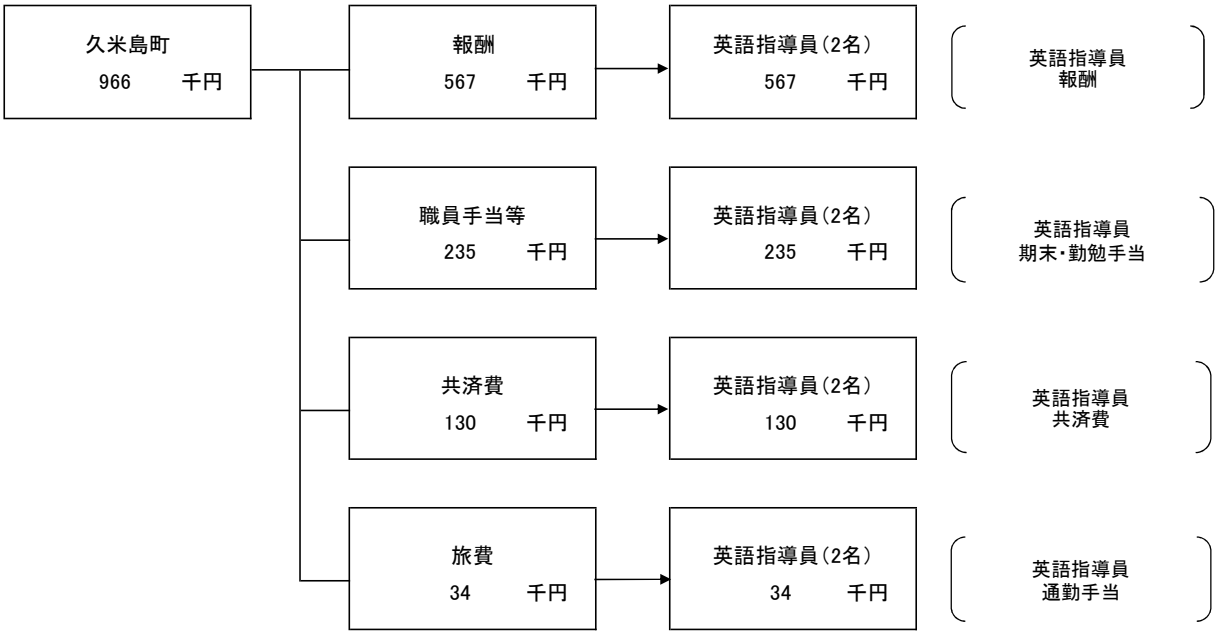
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学校は計画どおりに配置ができなかったため、英語を学ぶ意義や楽しさを十分に伝えられなかったことが、目標を下回った要因と考えられる。 ・中学校はこれまでの取組により目標値を達成したものの、英語指導員の配置ができなかったため、昨年度の実績を下回ったと考えられる。	・英語指導員と担任のミーティングにおいて、児童へ身につけたい内容の共有を強化することで、授業の質をより高めるほか、児童が英語を楽しく学べるように生きた英語に触れる機会を増やすなど、授業構成を工夫する必要がある。 ・英語指導員の配置ができるように、募集方法や資格要件を見直していく必要がある。

今後の取り組み方針

・英語指導員と担任の連携を密にするため、時間割を工夫して定期的に打合せを行い、連携体制の構築、強化に努めるほか、管内の小・中学校の英語主任研修会等で児童生徒の英語力の実態を把握し、体験を交えた楽しい授業など各学年に適した授業内容を検討していく。
・町ホームページや広報誌等により公募するほか、英語指導員としての英語力を有する者を町内において捜索し人材リストを作成する。リストに基づき、英語指導員に就くために必要な勤務条件等を整理して人材確保に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
966	966	772	194	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、英語指導員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、年度途中で欠員が生じ、その後短時間勤務の者を配置したものの不用額が生じた。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	基礎学力向上学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（2）－ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	児童の学力向上を図るため、小学校に基礎学力向上学習支援員を配置し、国語・算数を中心に学習未定着の児童に支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,060	8,781	9,174	8,712	10,521
	(b) 予算現額	8,319	8,763	9,196	7,882	10,521
	(c) 増減額 (b-a)	259	−18	22	−830	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,319	8,763	9,196	7,882	10,521
B. 執行済額		8,318	8,713	7,782	7,882	9,844
うち交付金充当額		6,654	7,010	6,225	6,306	7,875
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.4%	84.6%	100.0%	93.6%

予算の状況の説明：概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
基礎学力向上学習支援員を配置（名）	目　標	3	3	3	3
	実　績	3	3	3	3

達成状況説明：計画どおり小学校3校に各1名の学習支援員を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
沖縄県達成度調査における平均正答率の県平均との差(県主催の調査（ポイント） ※R4年度までは（点）	目　標		7以上	±0以上	3.5以上	
	実　績		5.1	2.1	2.3	

進捗状況説明：・高学年、中学年とも目標値を達成できなかったものの、前年度から0.2ポイント改善した。

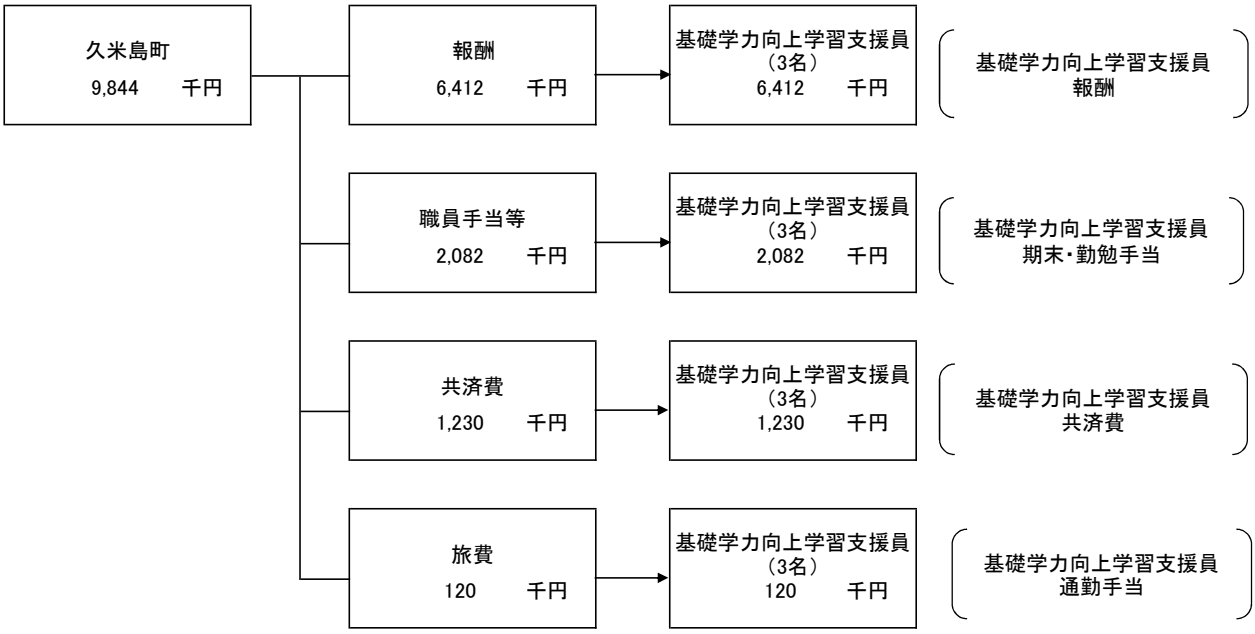
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学級担任と基礎学力向上学習支援員の連携する時間が確保できず、個々の支援を要する児童に対して十分な支援ができなかったことが目標を下回った要因と考えられる。	・基礎学力向上学習支援員の能力の向上はもとより、学級担任との協働体制の強化に向けて、学級担任と基礎学力向上学習支援員が十分に連絡調整を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・基礎学力向上学習支援員の能力の向上を図るための研修等を定期的に開催する。また、学級担任と基礎学力向上学習支援員が連絡調整する時間を設け、支援対象児童の検討や、支援内容の計画を立て、効果的な支援につなげるほか、各種学力調査の結果を用いて学習支援を要する児童の落ち込みの要因分析と学習支援計画の作成を協働で行い、個々のきめ細かな支援を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,844	9,844	7,875	1,969	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、基礎学力向上学習支援員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-③	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（2）－ウ 個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容	特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を各学校へ配置し、多様な要望に対応したきめ細やかな支援を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	39,818	36,819	39,088	36,256	46,042
	(b) 予算現額	36,644	36,455	35,519	31,372	28,768
	(c) 増減額 (b-a)	-3,174	-364	-3,569	-4,884	-17,274
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	36,644	36,455	35,519	31,372	28,768
B. 執行済額		35,051	31,616	29,453	31,372	27,112
うち交付金充当額		27,495	25,292	23,562	25,097	21,689
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		95.7%	86.7%	82.9%	100.0%	94.2%

予算の状況の説明：予算17,274千円の減額は、特別支援教育支援員が確保できず減員したことによるものである。
不用額1,656千円は、報酬等の改定に伴い確保した予算の執行残である。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
特別支援教育支援員を配置（名）	目　標	小学校11 中学校5	小学校13 中学校2	小学校11 中学校3	小学校12 中学校3
	実　績	小学校9 中学校7	小学校11 中学校2	小学校10 中学校3	小学校8 中学校2

達成状況説明：特別支援教育支援員の担い手が確保できず小学校は目標12名に対して8名、中学校は目標3名に対して2名の配置となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（2年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（6年度）
特別支援教育支援員の対応に満足していると回答した対象児童生徒の保護者の割合（%）	目　標		85	89	80	
	実　績		87	78	51.7	

進捗状況説明：・対象児童生徒の保護者に満足度に関するアンケートを実施し、結果は51.7%と目標値を大幅に下回った。

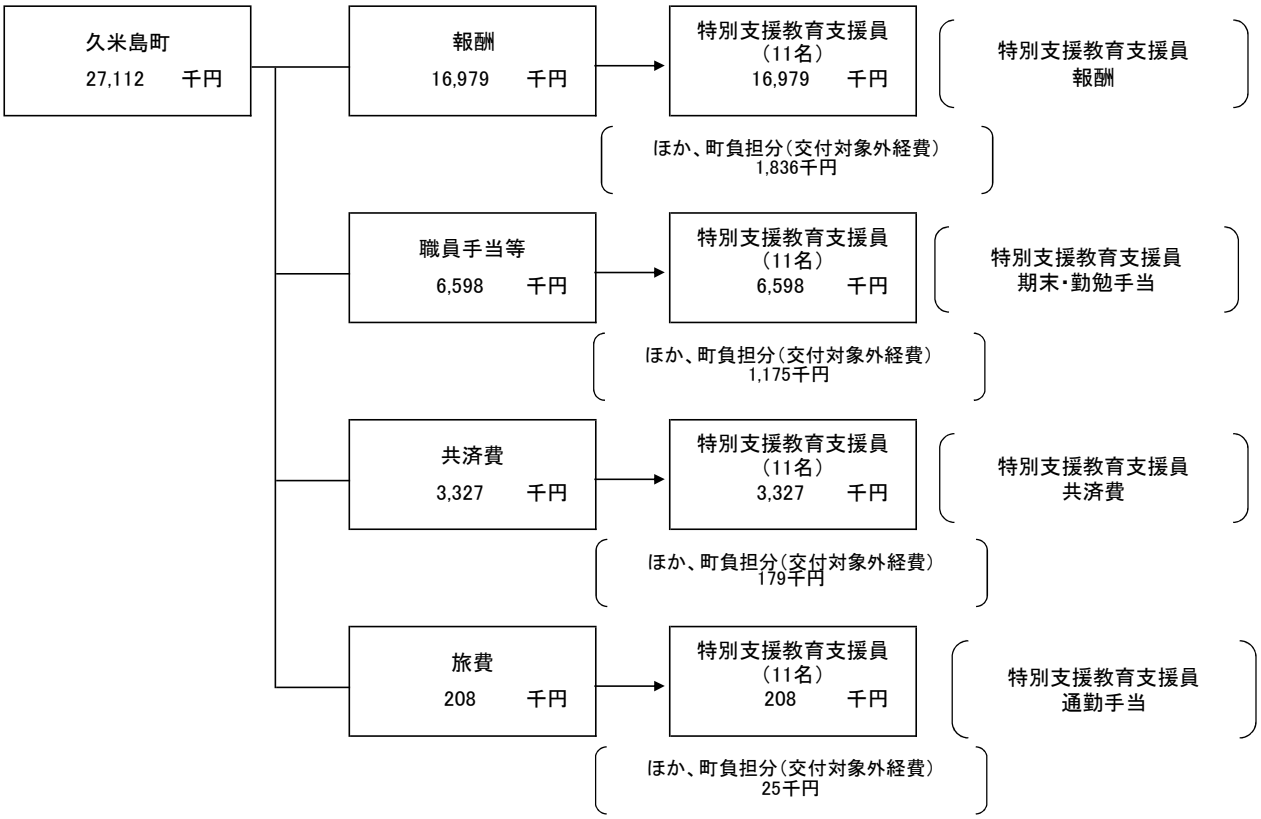
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・特別支援教育支援員を必要数確保できず、支援を要する児童生徒に対して、個々の特性に応じた支援が十分にできなかったこと、また、保護者に対して特別支援教育支援員の役割や支援内容の周知が不足していたことが目標値を下回った要因と考えられる。	・児童生徒に求められる支援内容に応じてきめ細やかに対応できなかったことから、特別支援教育支援員の担い手確保に努めるとともに、授業参観等を通して保護者向けに支援員の役割や支援内容を十分に周知する必要がある。

今後の取り組み方針

・例年、特別支援教育支援員の担い手確保に苦慮しているため、令和6年度に引き続き町内外を問わず町役場の情報媒体（HP,LINE等）を活用するとともに、早めの公募を行い確保に努める。また、保護者連絡ツールの活用や日曜参観等を通して保護者に支援の様子を伝え理解を深めさせるとともに、児童生徒の特性に応じたよりきめ細やかな支援につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,327	27,112	21,689	5,423	3,215



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、特別支援教育支援員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、報酬等の改定に伴い確保した予算の執行残が生じた。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	小中アシスト相談員事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－（2）－イ 豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和4～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

児童生徒の社会的自立に向けて不登校の児童生徒の登校復帰を促進するため、アシスト相談員を小・中学校に配置し、学校とアシスト相談員協働で不登校の児童生徒が登校できるよう支援する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,367	5,213	6,399		
	(b) 予算現額	2,399	4,633	6,399		
	(c) 増減額 (b-a)	32	-580	0		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	2,399	4,633	6,399		
B. 執行済額		2,013	4,633	5,817		
うち交付金充当額		1,610	3,706	4,653		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率 （%） (B/A)		83.9%	100.0%	90.9%		

予算の状況の説明：概ね事業計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
アシスト相談員を配置（名）	目　標	1	2	2	
	実　績	1	2	2	

達成状況説明：計画どおりアシスト相談員を2名配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（2年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
不登校率の減少（%）	目　標		6	4		
	実　績		5	6		
登校復帰児童生徒数（人）	目　標				2	
	実　績				7	

進捗状況説明：
・児童5名、生徒2名、合計7名が登校復帰することができ目標を上回った。
※令和6年度から不登校者数減少率の成果指標を、より効果の検証がしやすい登校復帰児童生徒数に変更

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・アシスト相談員、学校及び関係機関の連携を強化し、個々の関わり方を調整した上で小中アシスト相談員による積極的な家庭訪問等を実施したことが目標を達成した主な要因と考えられる。	・引き続き、対象学校、関係機関が連携した取り組みを実施しつつ、不登校の未然防止、初期対応の時点から関わることで、不登校になる手前で抑えられるようにする必要がある。

今後の取り組み方針

・小中アシスト相談員が各学校の養護教諭と連携して欠席状況等を把握し、未然防止、初期対応に向け児童生徒との関係作りができるようにする。また、定期に近隣校を回り各学校の状況を把握し、情報共有に努める。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,817	5,817	4,653	1,164	0

久米島町 5,817 千円

- 報酬 3,907 千円 → 小中アシスト相談員（2名） 3,907 千円 （小中アシスト相談員 報酬）
- 職員手当等 1,461 千円 → 小中アシスト相談員（2名） 1,461 千円 （小中アシスト相談員 期末手当）
- 共済費 399 千円 → 小中アシスト相談員（2名） 399 千円 （小中アシスト相談員 共済費）
- 旅費 50 千円 → 小中アシスト相談員（2名） 50 千円 （小中アシスト相談員 通勤手当）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、小中アシスト相談員を公募し、書類選考及び面接の上、採用しているため妥当と考える。 ○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。 ○会計年度任用職員給料表に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	学校ICT活用支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	ICT活用により分かりやすい授業を実施するため、教職員の効果的なICT活用を支援するICT支援員を配置する。また、児童生徒の１人１台端末の活用に適した机上空間を確保するためデスク天板拡張備品を整備する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（令和　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,600	6,600			
	(b) 予算現額	54,296	9,621			
	(c) 増減額 (b-a)	47,696	3,021			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	54,296	9,621			
B. 執行済額		54,296	9,621			
うち交付金充当額		43,436	7,696			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		予算3,021千円の増額は、デスク天板拡張ツール（備品）の整備を追加したことによるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ICT支援員を配置（町内8小中学校を巡回）（名）	目　標	1	1		
	実　績	1	1		
デスク天板拡張ツールを整備（個）	目　標		688		
	実　績		688		
町内8小中学校に電子黒板等をICT機器整備（台）	目　標	52			
	実　績	52			
達成状況説明	・ICT支援員を1名配置し、各学校へ現地訪問等を行った。 ・デスク天板拡張ツールを整備した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R5年度）	R5年度	R7年度	R8年度	目標値（R9年度）
ICT活用により授業がわかりやすかったと答えた児童生徒の割合（%）	目　標	80以上	80以上	80以上		
	実　績		85.4	83.6		
進捗状況説明	・ICT活用に関するアンケートを各小中学校の児童生徒向けに3月に実施し、561名の回答を集計した結果、目標値を上回る回答が得られた。					

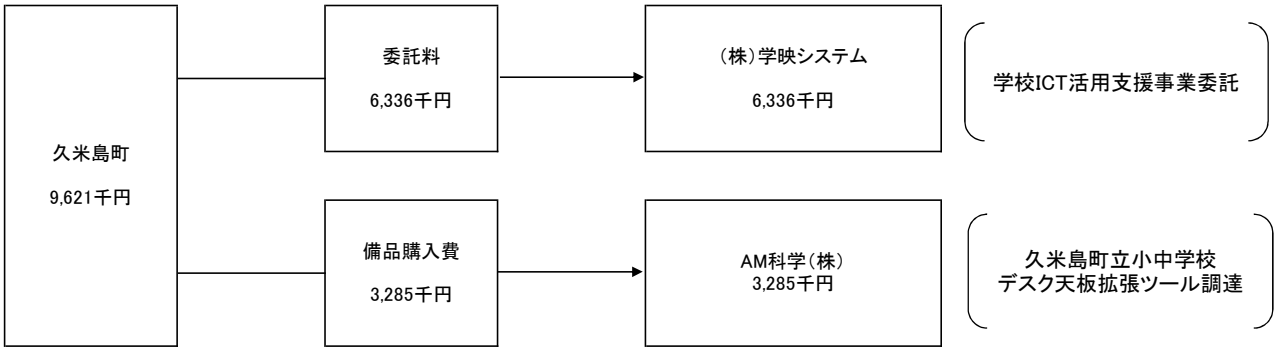
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ICT支援員や、サポートデスクによる支援により、教職員が昨年度導入した電子黒板をはじめICT機器を活用した分かりやすい授業を実施できたことが目標値を上回った主な要因と考えられる一方、ICT活用により授業がわかりやすかったと回答しなかった児童生徒もわずかに生じた。	・ICT支援員による教職員への支援を、1学校に毎月8時間の訪問により実施したものの、授業との兼ね合いで支援が行き届かないことも一部生じたことから、教職員が抱える課題に着実に対応できるよう改善する必要がある。

今後の取り組み方針

・ICT支援員の学校訪問時に、支援を受けたい教職員が利用できるように訪問日程を綿密に調整する。調整が困難な場合には、サポートデスクを有効に活用することでICT機器を活用した分かりやすい授業が実施できるように促していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,621	9,621	7,696	1,925	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	地域型就業意識向上支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（2）ーウ 個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)

事業内容	児童生徒を対象としたキャリア教育等を実施し、児童生徒に産業や職業の魅力を伝え、就業意識の向上を図ることで将来の沖縄を担う人材の育成につなげる。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,369	8,344	8,946	7,348	7,706
	(b) 予算現額	8,701	7,620	7,491	6,980	6,839
	(c) 増減額 (b-a)	-2,668	-724	-1,455	-368	-867
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	8,701	7,620	7,491	6,980	6,839
	B. 執行済額	7,759	7,620	6,556	6,259	6,805
	うち交付金充当額	6,207	6,096	5,244	5,007	5,444
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		89.2%	100.0%	87.5%	89.7%	99.5%

予算の状況の説明：予算867千円の減額は、業務内容の見直しによる執行残である。
概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
ジョブシャドウイング（小）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	一部未実施	実施	実施	実施
インターンシップ（高）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	内容を変更して実施	内容を変更して実施	実施	実施
職場体験（中）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	他内容を変更し実施	他内容を変更し実施	実施	実施
職業人講話（小中高）	目　標	開催	開催	実施	実施
	実　績	内容を変更し実施	内容を変更して実施	実施	実施
わくわくワーク（就業体験型イベント）（小）	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	内容を変更して実施	実施	実施	実施
グッジョブ連携協議会	目　標	開催	開催	開催	開催
	実　績	開催	開催	開催	開催
追跡調査	目　標	実施	実施	実施	実施
	実　績	実施	実施	実施	実施
プログラミング授業(中)	目　標				実施
	実　績				実施

達成状況説明：
・ジョブシャドウウイング（小）は、19事業者が児童を受入れ実施した。
・インターシップ（高）は、31事業者が生徒を受入れ実施した。うち4事業者の新規受入れ先を開拓した。
・職場体験（中）は、16事業者が生徒を受入れ実施した。
・職業人講話は、小学校6校、中学校2校にて8回実施した。進路講話では高校に4事業所9名の講師を派遣して実施した。
・わくわくワークは、16事業所が参加し、就業体験型イベントを全小学校(6校)合同で実施した。
・グッジョブ連携協議会は、商工会、観光協会、校長・教頭会など関係する機関が参加して2回開催した。
・事業効果を検証する追跡調査は、高校3年生を対象に実施した。
・プログラミング授業は、中学生を対象に2日間実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
就業に対して理解が深まったと回答した児童生徒の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		92	94	90	

進捗状況説明：
・就業に対して良い印象を抱いた割合は小学生が94%、中学生が90%、高校生が88%となり、平均90%で目標値を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小学生から高校生まで発達段階に合わせた職業体験プログラムや、地域資源を活用した実践的な内容の実施によって、参加者の関心が高まり、前向きな印象の想起にも寄与したことが目標を達成した主な要因と考えられる。しかしながら、中学生においては、「働く意欲」「将来の夢や目標」に関するアンケート項目で後ろ向きな回答が目立った。	・働く意欲や、将来の夢や目標を持つことができるようにするためには、久米島の産業が未来にどうつながり、自身のこれからの経歴とどう結びつくのかということを児童生徒に主体的に考えさせるように工夫する必要がある。

今後の取り組み方針

・児童生徒に主体的に考えるさせるため、まずは児童生徒が身近な課題に目を向け、その改善策を主体的に考え、行動に移していく機会を学校生活において確保していく。また、子どもたちの就業意識は、家庭環境も影響することから、事前学習を授業参観に設定することや、お便り発行、広報くめじまへの記事掲載など保護者と連携して支援する体制を整えていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,805	6,805	5,444	1,361	0

久米島町
6,805千円

→ 委託料
6,805千円

→ (株)ANEMONE
6,805千円

（久米島町地域型就業意識向上支援事業業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルにより実績、ノウハウ等を勘案した上で随意契約により選定しており妥当であると考える。 ○予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	ホームステイ等派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和5～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7

事業内容

児童・生徒に国際的な視野を持たせるため、次代を担う小・中学生に、島内在住外国人との交流や海外ホームステイを通じた英語の実践や異文化に対する理解を深める機会を提供する。

効果発現年度　■当年度　■後年度（7年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,736	4,977			
	(b) 予算現額	1,877	1,908			
	(c) 増減額 (b-a)	141	-3,069			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	1,877	1,908			
B. 執行済額		1,877	1,808			
うち交付金充当額		1,502	1,446			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明

予算3,069円の減額は、高校生の海外ホームステイを中止したことによるものである。
概ね計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
海外ホームステイ派遣（名）	目　標	2	2		
	実　績	2	2		
島内在住外国人との交流（名）	目　標	12	12		
	実　績	10	12		

達成状況説明

海外ホームステイに中学生2名を派遣することができた。
島内在住外国人との交流に小学生12名派遣することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
（中学生：海外ホームステイ派遣）国際的な視野が広がったと回答した生徒の割合（%）	目　標		80	80		
	実　績		80	85		
（小学生：島内在住外国人との交流）英語に対する学習意欲が向上したと回答した児童の割合（%）	目　標		85	80		
	実　績		85	85		

進捗状況説明

（中学生）
・参加した生徒に対してアンケートを実施したところ目標を上回った。
（小学生）
参加した児童に対してアンケートを実施したところ目標値を上回った。

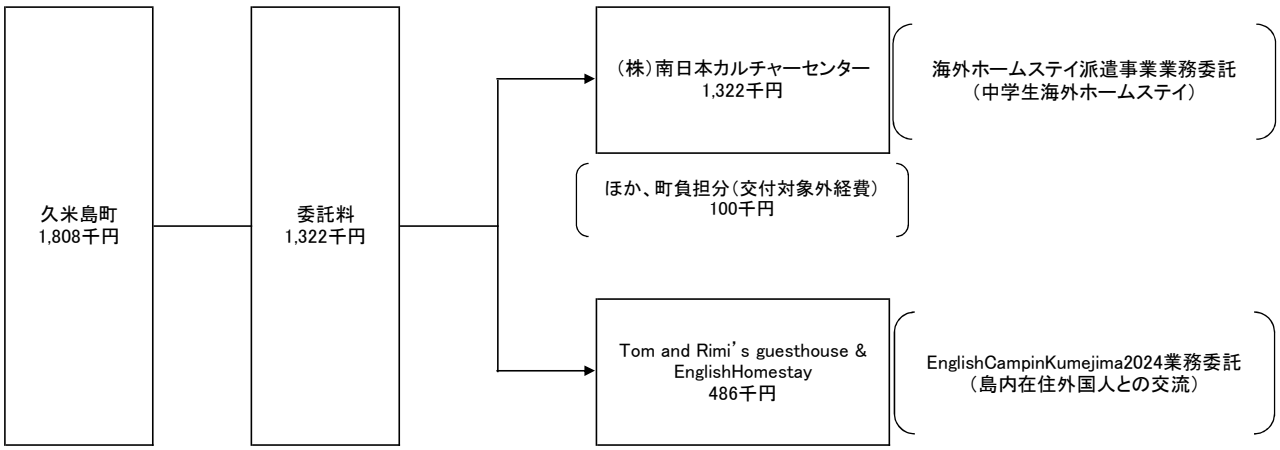
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（中学生） ・学習の進捗状況や語学力に応じたプログラムを提供でき、特に、座学のみとせず、屋外でのアクティビティを取り入れたことで生徒がより意欲的に英会話にチャレンジできたことが目標を上回った主な要因と考えられる。 （小学生） ・英会話で暮らす体験ができ、英語を身近に感じながら楽しく学ぶことができたといった感想が多くあったことから、ゲームやアクティブを多く取り入れるなどプログラム内容を見直したことが目標を上回った主な要因と考えられる。	（中学生） ・参加した生徒の意見や感想を踏まえ、プログラム内容の改善を行い更に魅力的な内容としていく必要がある。 （小学生） ・参加した児童からの評判等による波及があり参加を希望する児童が増加傾向にあることから、より多くの児童に英語に対する興味・関心を高める機会を提供する必要がある。

今後の取り組み方針

（中学生）
・効果を高める方法として、屋外でのアクティビティの有効性を把握できたが、気象条件等に影響を受けるプログラムであるため、代替案を予め設定しておくほか、参加した生徒の意見等を参考にプログラム内容の変更を進めていく。
（小学生）
・募集枠を上回る応募があり、選考を行い実施している状況であるため、２泊３日のプログラム期間を１泊２日に短縮し、受入（募集）人数を増やすなど実施内容を再検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,908	1,808	1,446	362	100



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%程度であり適正な規模であった。 ○受益者である児童生徒は総事業費の2割程度を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-③	久米島現代版組踊推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容	久米島の歴史・文化に対する地域住民等の興味・関心を高め、保存・継承につなげるため、小中高生を中心とした地域の若者達による本町の歴史を題材とした舞台「現代版組踊」の公演等を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H30年度	R1年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,169	5,009	4,904	5,343	5,343
	(b) 予算現額	7,062	5,009	4,994	5,343	6,058
	(c) 増減額(b-a)	893	0	90	0	715
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	7,062	5,009	4,994	5,343	6,058
B. 執行済額		6,773	5,006	4,994	5,343	6,058
うち交付金充当額		5,418	4,004	3,995	4,275	4,846
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		95.9%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明	計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 H30年度	R1年度	R5年度	R6年度
現代版組踊り公演（回）	目　標			2	2
	実　績			2	2
・各種イベントへの出演（回）	目　標	12	12	6	6
	実　績	12	15	8	8
・参加児童生徒数（人）	目　標		25前後		
	実　績		36		
・自主開催に向けた指導者の育成（人）	目　標	1			
	実　績	1			

達成状況説明	・久米島の小中高生50名による、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた舞台（現代版組踊）の公演を久米島町内で1回、那覇市内で1回開催した。 ・夏まつりや車エビフェスタ等の島外から観光客が多数訪れる催しに8回出演し、ダンス等を披露することで、島の歴史的文化として地域の魅力を発信することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R1年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者の割合（%）	目　標			80	80	
	実　績			80	90.4	
観覧者数（2公演の合計）（名）	目　標		690以上			
	実　績		772			
取組に参加したことで久米島の歴史文化に関心を持ったと回答した参加した児童生徒の割合（%）	目　標		90			
	実　績		94			

進捗状況説明	・小学生、中学生、高校生計50名によって、8月に久米島町内、12月に那覇市内の各会場において舞台公演を開催したほか、島内の地域行事やイベントに8回出演しダンス等を披露したことにより目標を達成できた。

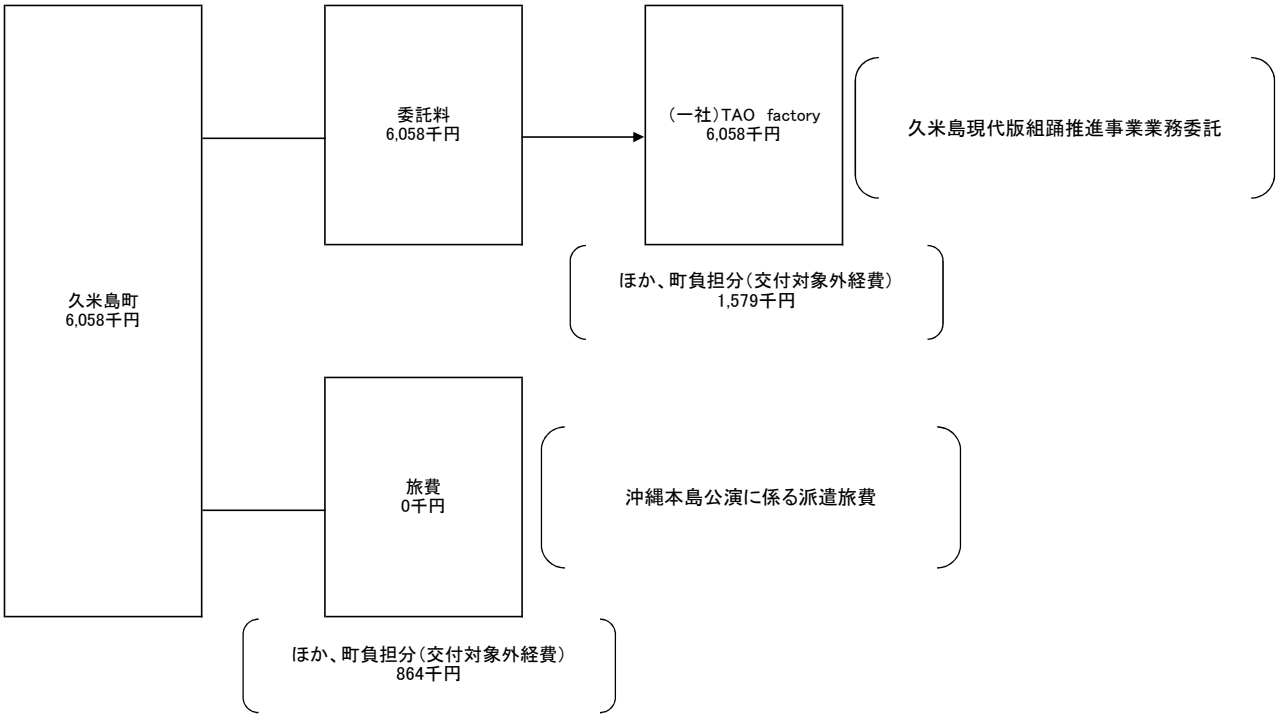
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・久米島町の児童生徒が稽古に励み、各公演において久米島の歴史を題材とする舞台を十分に表現できたことが目標を達成した要因と考えられる。他方、久米島町における公演の開催を、例年の12月から8月に変更したことで、公演までの期間が短く、児童生徒にとって心身ともに厳しい稽古となったため改善が求められる。	・公演時期を調整し、無理のない稽古を組み児童生徒の精神面、身体面の負担を軽減する必要がある。また、稽古の期間が短い場合に島外から来島する指導者を増員しなければならないことや、夏季は観光シーズンに伴い旅費が割高になるなど事業費高騰の要素も勘案し適切な時期を定める必要がある。

今後の取り組み方針

・出演者や関係機関と早期に調整を行い、公演時期を12月に設定することで、舞台公演までに十分な期間を確保し、平準化した定期の稽古を実施していく。指導者の来島に伴う旅費についても、航空券等の手配を早期に対応することで安価に抑え事業費の低減を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,501	6,058	4,846	1,212	2,443



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な予算規模であった。 ○チケットを販売し、その収入は全額を事業費に充てている。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、実績書類により確認し、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-④	文化遺産保存活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア
					沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	久米島博物館	事業実施（予定）年度	平成24～令和12年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容	古くから中国、東南アジア諸国等との交易・交流を通じて形成された沖縄独自の歴史・文化（古文書）を保存・継承するため、古文書の修復、翻刻及び口語訳を行う。
効果発現年度	■当年度　■後年度（R7年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	10,572	11,362	8,765	6,643
	(b) 予算現額	10,500	10,547	11,362	8,752	6,644
	(c) 増減額 (b-a)	500	-25	0	-13	1
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	10,500	10,547	11,362	8,752	6,644
B. 執行済額		10,398	10,547	11,302	8,752	6,644
うち交付金充当額		8,318	8,437	9,042	7,001	5,315
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		99.0%	100.0%	99.5%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R1年度	R2年度	R3年度	R6年度
古文書修復件数（件）	目　標	230	230	229	100
	実　績	230	230	229	100
・翻刻・口語訳件数（点）	目　標	30	30	30	
	実　績	30	30	30	
・修復資料速報展示	目　標	実施	実施	実施	
	実　績	実施	実施	実施	

達成状況説明：計画どおり古文書資料100件の修復できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R2年度	R3年度	R6年度	目標値（R7年度）
古文書修復件数（件）	目　標				100	
	実　績				100	
修復文書速報ロビー展見学者数（人）	目　標			6,319以上		6,320以上
	実　績			2,780		
修復を行った古文書の調査利用件数(件)	目　標		120以上	120以上		53以上
	実　績		0	10		
修復を行った古文書の調査利用人数（名）	目　標		5	5		5以上
	実　績		0	2		

進捗状況説明：・計画どおり古文書資料100件の修復を行い、目標数値を達成できた。

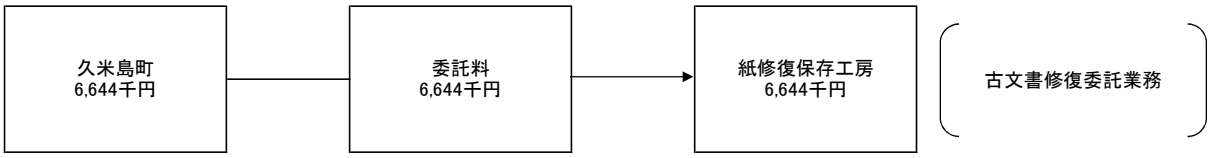
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町民の歴史文化及び文化財に対する関心の向上を図るため、さらに調査研究を進め、町民自らが学ぶことができるよう効果的な活用を検討していく。 ・よりよい方法を検討し修復作業を進めていくため、資料の状態を把握したうえで、これまで以上に委託業者と連携を図り事業を遂行したい。	・修復した古文書の適正な保存・管理に努めつつ、町民が取り組む勉強会や展示会、学術利用等に寄与する利活用を検討する必要がある。 ・計画より修復に時間を要する場合を想定し、履行期間に余裕をもちつつ、可能な限り迅速な契約及び執行に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・修復した古文書の博物館ロビーにおける定期的な展示をはじめ、調査で得られた成果を理解しやすい内容で町民等に公開することで、広く普及していくほか、大学など研究機関の執筆活動等に寄与するため、調査利用者との連絡を密にし、充実した調査を行えるよう務めていく。
・契約を4月に締結することで、適切な修復方法の選定から修復作業の完了までに必要な実施期間を十分に確保していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,644	6,644	5,315	1,329	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○令和12年度までに目標を達成するための必要な事業規模を算出し、計画的に事業を実施しており適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	航空運賃コスト負担軽減事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア
					人流・物流のｺｽﾄ低減と情報通信基盤の強化
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	入域観光客数の増加を図るため、航空事業者が観光客等に対して運賃を割り引いて販売した際の差額分を補填し、割高な渡航運賃を低減することで、観光客等が訪れやすい環境を整備する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,200	15,700	15,700	15,700	5,646
	(b) 予算現額	13,500	15,700	13,100	3,760	5,646
	(c) 増減額 (b-a)	-2,700	0	-2,600	-11,940	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	13,500	15,700	13,100	3,760	5,646
B. 執行済額		8,358	9,261	11,672	2,201	2,135
うち交付金充当額		6,686	7,408	9,338	1,761	1,708
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		61.9%	59.0%	89.1%	58.5%	37.8%

予算の状況の説明：不用額3,511千円は、観光入域客の実績が想定を大幅に下回ったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

年度活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
交流人口を対象とした航空運賃割引の実施	目　標	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助
	実　績	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助	航空運賃の補助

達成状況説明：5,886人の旅客者に対して航空運賃を補助した。

成果目標（指標）及び進捗状況

年度成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
久米島町への観光入域者数（人）	目　標		126,000以上	130,000以上	130,000以上	
	実　績		84,779	98,082	88,527	

進捗状況説明：新型コロナウイルスは収束したものの、未だ影響は尾を引いており目標を達成できなかった。

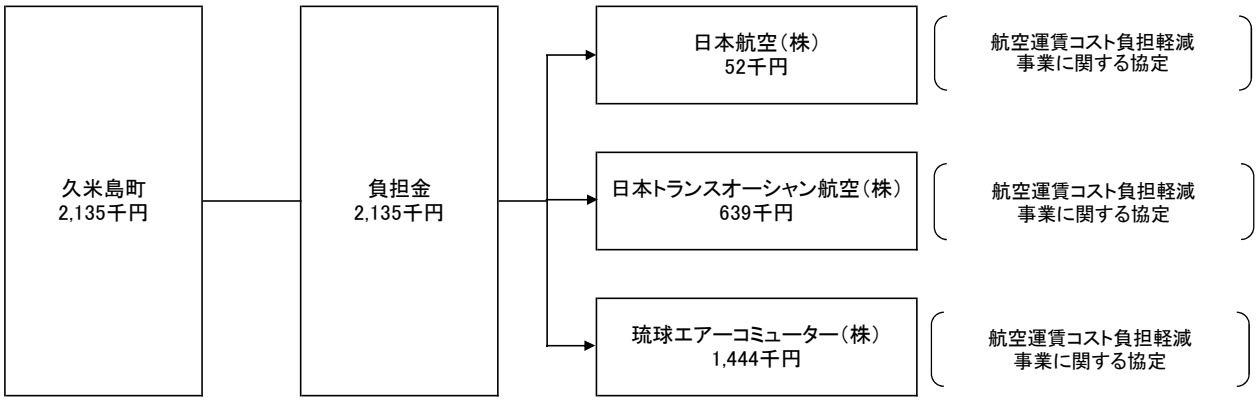
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・久米島町への入域者数が目標まで伸びなかった。他の地域における誘客の取組よりも受入体制や、アプローチが必ずしも十分でなかったことが目標を下回った主な要因と考えられる。	・R6年度の観光入域者数は、前年度の9割程度に留まった一方、沖縄県観光入域客数は、新型コロナウイルス感染症の収束後、緩やかに伸びていることを踏まえ、本事業の周知はもとより、誘客に関係する他の事業や、関係機関との連携を強化し、観光誘客を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

・「第3次久米島町観光振興基本計画」に目標値として「令和10年度観光入域者15万人」を掲げている。この達成に向けて、各年度の観光入域客数を段階的に引き上げる必要があることから、航空事業者をはじめ、観光・サービス業の関係者や、沖縄県との連携を一層強化し、誘客に資する取組を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,135	2,135	1,708	427	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については久米島と沖縄本島を結ぶ航空会社3社を選定している。費用負担の協定書を締結のうえ実施しており、選定方法は妥当である。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、観光入域客の実績が想定を大幅に下回ったことにより不用額が生じた。 ○運賃が基準額を上回る場合に、当該運賃の2割を上限に低減し、残りは利用者負担としている。他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については、事業目的の観点から精算時に精査しており、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	児童・生徒各種大会派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（1）-ウ
					公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容

島外において開催される各種大会（スポーツ・文化）等への参加を通じて児童生徒に広い視野を持たせるため、同大会等の参加に要する派遣旅費に対する支援を行い、地理的・経済的な理由に左右されず多くの生徒が参加できる環境を整備する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,767	6,716	6,596	6,526	7,257
	(b) 予算現額	5,064	5,574	5,796	7,151	7,704
	(c) 増減額 (b-a)	-1,703	-1,142	-800	625	447
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,064	5,574	5,796	7,151	7,704
B. 執行済額		4,079	4,983	5,507	7,151	7,470
うち交付金充当額		3,262	3,987	4,406	5,721	5,976
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		80.5%	89.4%	95.0%	100.0%	97.0%

予算の状況の説明　予算447千円の増額は実績見込みに応じて調整したものである。
概ね計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
島外で開催される各種大会・コンクール等に参加する生徒に対し、派遣旅費の支援を行う（延べ人数・名）	目　標	610	590	573	638
	実　績	492	539	612	676

達成状況説明　スポーツの各種大会や、文化系コンクール等に目標値を上回る延べ676名の出場が叶い、対象者に派遣旅費を支援した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
島外において開催される各種大会等に参加して視野が広がったと回答した児童・生徒の割合（%）	目　標		80以上	80以上	80以上	
	実　績		83	90	92	

進捗状況説明　・派遣旅費の支援を受けた生徒に対してアンケートを実施したところ、肯定的意見が大多数となり目標値を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の中学校は2校となっていることから、大会等への派遣は生徒にとって貴重な体験となっている。子育て世帯の経済的な事情に左右されず、生徒が大会等に確実に参加できるように本事業による支援が十分に行き届いたことが目標を達成した主な要因と考えられる。	・生徒数の減少に伴い一人の生徒が複数の部活動において各種大会等に出場するなど一人当たりの渡航回数が増加していることや、昨今の物価高騰に伴う旅費の高騰が生じていることを踏まえ、保護者の経済的な負担の増大を抑え、引き続き生徒が島外の大会等に出場できるように支援する必要がある。

今後の取り組み方針

・物価高騰に伴う保護者負担の増加の実態等を把握して、必要に応じて補助金交付要綱の見直しを行い、生徒が島外の大会に確実に出場できるように取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,546	7,470	5,976	1,494	76

久米島町 7,470千円 → 補助金 7,470千円 → 学校 7,470千円 → 保護者 7,470千円

（児童・生徒各種大会派遣支援事業補助金）

（ほか、町負担分（交付対象外経費）76千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は交付要綱に基づき決定しており、妥当である。 ○補助金交付対象の大会、参加人数、旅程等の派遣計画に見合った予算規模であった。 ○負担金は「地区大会：渡航費1/2、宿泊費1泊3,000円上限」「県大会：渡航費実費、宿泊費5,000円上限」「全国大会：渡航費1/2」としており、これを上回る分を自己負担しているため妥当であった。 ○費目・使途について実績報告書で審査し、真に必要なものと判断した（類似する補助が出るものについては対象外としている）。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	島外保育士確保対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア
					子ども・子育て支援の充実
担当部課名	子ども未来課	事業実施（予定）年度	令和3～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)

事業内容

保育士及び保育士免許取得見込者を対象とした保育施設見学・就職説明会や、保育士に就くために久米島町に転入する者に対して渡航費、転居費の支援を実施することで、待機児童の解消に向けて各保育所・園で必要とされる保育士数の充足を図り、安定的な保育の受入体制を実現する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,400	3,500	4,070	3,550	
	(b) 予算現額	4,400	1,200	1,786	2,050	
	(c) 増減額 (b-a)	0	−2,300	−2,284	−1,500	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	4,400	1,200	1,786	2,050	
B. 執行済額		907	28	1,786	1,724	
うち交付金充当額		725	23	1,428	1,379	
次年度繰越額				0	0	
執行率（%）(B/A)		20.6%	2.3%	100.0%	84.1%	

予算の状況の説明

予算1,500千円の減額は、保育士の確保人数の下方修正に伴い渡航費、引越費用等の補助金を減額したものである。概ね計画どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
島外保育士の渡航費、転居費の支援（名）	目　標	8	3	5	5
	実　績	2	1	1	3
島内保育施設等の見学、就職説明会（名）	目　標			1	20
	実　績			1	21

達成状況説明

沖縄本島開催の合同就職説明会や町ホームページ、沖縄県保育士・保育所支援センターのホームページに掲載し周知を行い、島外から3名の保育士を確保することができ渡航費等を支援した。
久米島町内の保育施設見学ツアー・合同就職説明会を3回開催し、21名の参加があった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（R1年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
待機児童数(保育所等利用待機児童数調査4.1時点)（名）	目　標	10	5	0	6	
	実　績		13	4	0	

進捗状況説明

・令和7年4月1日時点の待機児童は0名となり目標を達成した。

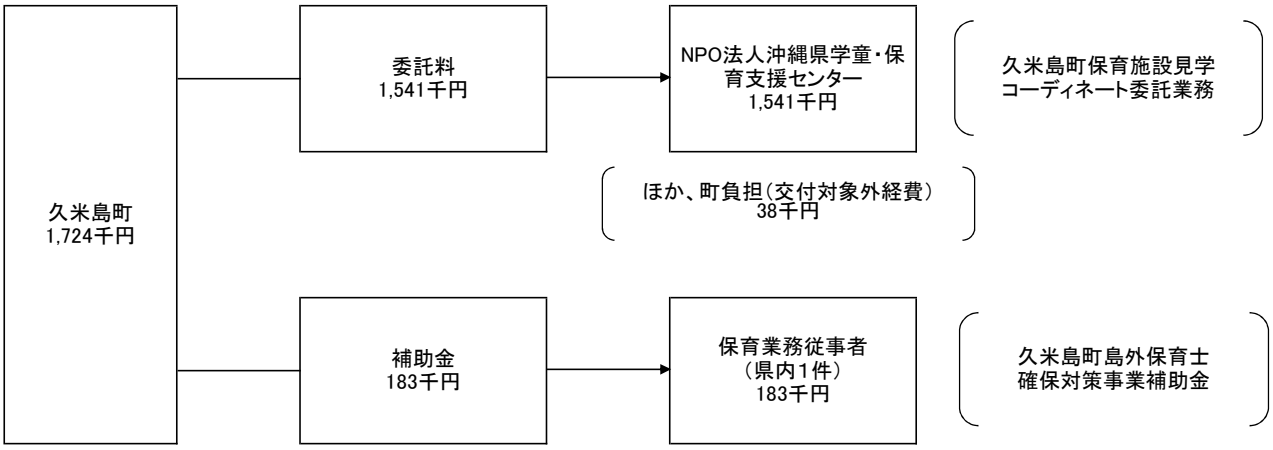
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・保育士の必要数を概ね確保でき、定員数に近い人数を受け入れたことで待機児童は0名となったものの、保育士は依然として充足していない。	・引き続き保育士を島外から呼び込み、充足させることで、待機児童の生じない受入体制を整えるとともに、既に従事している保育士の負担を軽減する必要がある。

今後の取り組み方針

・保育施設見学ツアー・合同就職説明会を引き続き開催することで、久米島町内の保育施設への就職を検討する契機を作るとともに、保育施設に関する情報のほか、離島の生活環境に起因する離職を防止する観点から住環境についても理解を深められるような内容を実施していく。また、R6年度の説明会参加者に対しても勧誘を継続することで保育士の確保につなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,762	1,724	1,379	345	38



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金は交付要綱に基づき選定しており、妥当であったと考える。委託業務は第167条の2第1項第2号に基づき随意契約しており妥当であったと考えている。 ○目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○本町への赴任に必要な経費に対してのみ補助しており妥当であった。 ○費目・使途についても、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-④	親子支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ 豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進
担当部課名	子ども未来課	事業実施（予定）年度	令和6～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)

事業内容

就学後に学習・行動等が著しく困難となることが想定される子どもに対して、就学前に専門職によるきめ細かな支援を行うことで、学校・社会生活に適応できるようにする。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,466				
	(b) 予算現額	1,284				
	(c) 増減額 (b-a)	-2,182				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	1,284				
B. 執行済額		987				
うち交付金充当額		789				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		76.9%				

予算の状況の説明

予算2,182千円の減額は、一部取組を取下げたことによるものである。
概ね計画どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
乳幼児健診等の後のフォロー（回）	目　標	実施			
	実　績	4			
親子ひろばの開催（回）	目　標	開催			
	実　績	10			

達成状況説明

いずれも計画どおり実施することができ、16人の対象児が参加した。
うち年度内に10人が卒業（STAR・Onestep通所2人、転出1人、希望なし3人、その他4人）となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（R6年度）
親子支援事業の支援により症状等の改善が見られたと回答した対象児の保護者の割合（%）	目　標		80以上			
	実　績		66			

進捗状況説明

・親子ひろばに参加した対象児の保護者にアンケートを実施し目標値を下回る結果となった。

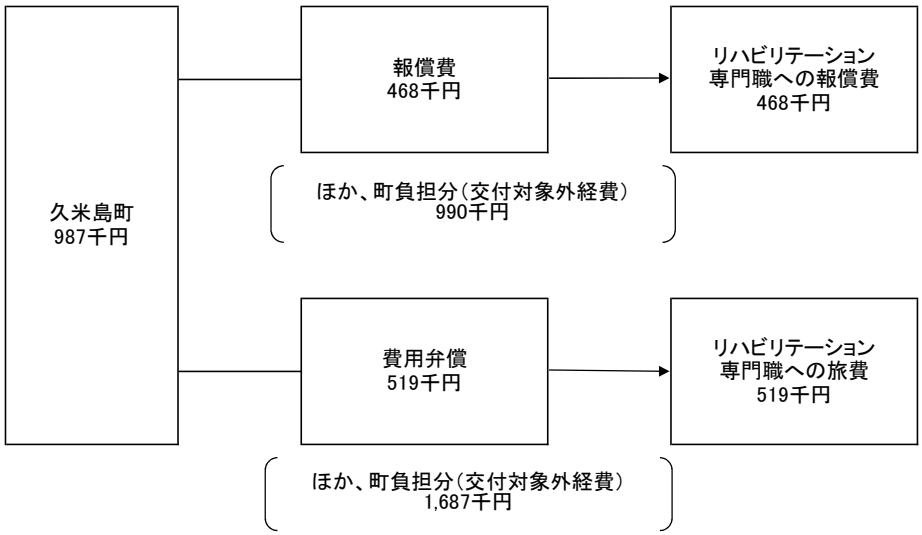
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・親子ひろばにおいて、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、心理士、保育士といった専門職による支援を行い、保護者の対象児との関わり方等の改善は見られたものの、対象児の症状等の改善が見られたかについては「わからない」という回答が多くあり目標を下回った主な要因と考えられる。	・専門職から現状に対しての助言は多くできた一方、対象児の症状等に関する改善状況（支援による変化）に関する説明を保護者に伝える時間が少なかったことから、親子ひろばの開催内容を見直していく必要がある。

今後の取り組み方針

・0～3歳、4～5歳の対象を分けて実施することで、発育状況に応じた集団遊びにおける行動観察を行い症状等の改善策を検討するとともに、対象児の改善状況について、専門職から対象児の保護者に対してより丁寧な説明を行い、日常生活における対象児との関わり方等の助言をしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,664	987	789	198	2,677



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○親子ひろばに必要な専門職を実施要項で定め選定しており妥当であったと考えている。 ○目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。 ○費目・使途についても、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑤	島外幼稚園教諭等確保対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア
					子ども・子育て支援の充実
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	令和6～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)

事業内容

就学1年前の子どもを安心・安全にを預けられる環境を整え保護者の育児に係る負担感を軽減するため、幼稚園・預かり保育の運営に必要な幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・ヘルパーを島外から誘致するほか、預かり保育を実施する。

効果発現年度

■当年度　□後年度（　年度）

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13,869				
	(b) 予算現額	8,011				
	(c) 増減額 (b-a)	-5,858				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	8,011				
B. 執行済額		4,316				
うち交付金充当額		3,452				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		54%				

予算の状況の説明

・予算5,858千円の減額は、島外からの幼稚園教諭等の確保人数（計画）を下方修正したこと等によるものである。
・不用額3,695千円は、島外からの幼稚園教諭等の確保人数が皆無となったこと、報酬等の人件費において不用が生じたことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
島外幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・預かり保育ヘルパーの渡航費・転居費の支援（名）	目　標	1			
	実　績	0			
預かり保育の実施	目　標	実施			
	実　績	実施			

達成状況説明

・預かり保育指導員を島外から確保することができず支援は0名となった。
・預かり保育指導員2名、預かり保育ヘルパー2名を町内で新たに確保することができ、預かり保育を清水幼稚園にて実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（R6年度）
幼稚園教育に満足していると回答した保護者の割合（%）	目　標		80以上			
	実　績		90			
安心・安全に子どもを預け、育児の負担感が軽減されたと感じたと回答した保護者の割合（%）	目　標		80以上			
	実　績		90			

進捗状況説明

・保護者にアンケートを実施した結果、肯定的な意見が多くいずれも目標値を上回った。

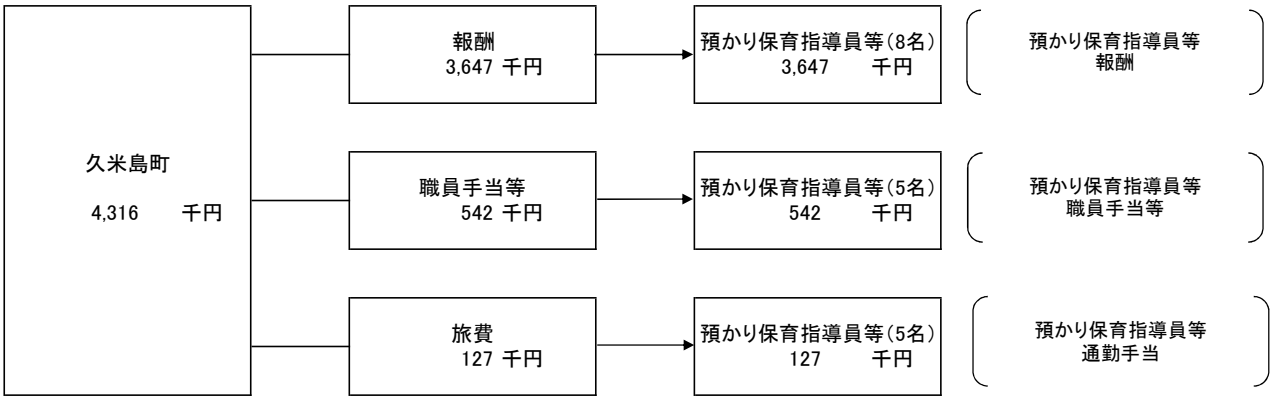
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・幼稚園、預かり保育いずれも、1園にて実施を余儀なくされた。幼稚園については、2園体制と比較して、配置職員数が多くなり、就学前の園児の個々の発育状況に応じたきめ細かな対応ができたこと、預かり保育については、概ね対象児全員を受入れ、保護者の育児負担の軽減に努めたことが目標値を上回った主な要因と考えられる。	・保護者の送迎等の負担軽減を図るため2園体制を再開することとなるが、依然として幼稚園教諭、ヘルパー等は充足していない。島内外から有資格者を募り充足させることで、同水準の幼稚園教育や、保護者の負担を軽減する預かり保育を引き続き実施する必要がある。

今後の取り組み方針

・島外からの人材確保の必要性は変わっておらず、今後も幼稚園教育等の人材不足は続くものと考えられる。島外からの人材確保に向けて、他の事業である保育士確保の取組を参考にしつつ、連携しながら関係機関と調整していく。また、島内在住者からも人材を確保できるよう、意欲のある方への資格取得に係る支援や、潜在する有資格者の復職支援等を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,316	4,316	3,452	864	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、預かり保育指導員として募集し、書類選考及び面接のうえ、採用しているため妥当と考える。 ○必要性を踏まえて所要額を算出したものの、島外からの幼稚園教諭等の確保人数が皆無となったこと、報酬等の人件費において不用が生じた。 ○人件費は、会計年度任用職員給料用に基づき支出しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	